

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要 【台東区総合学力調査】  
 調査対象 台東区蔵前小学校 第5学年  
 実施日 令和4年4月18日  
 実施教科 第5学年 理科

第5学年 理科

1 結果の分析

(1)結果の概要

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

3観点とも目標値を上回っている。しかし、上回ったポイントは「思考・判断・表現」が5%と比較的低かった。

◇正答率度数分布グラフから

正答率50%以上100%未満の範囲でほぼ均等に広く分布している。100%はおらず、また、30~40%も一定数いた。

分類	区分	平均正答率(%)			
		本校	目標値	区	全国
評価の観点	知識・技能	78.0	71.8	72.2	72.4
	思考・判断・表現	56.8	51.8	51.7	50.5
	主体的に学習に取り組む態度	50.2	43.9	41.9	40.4

(2)結果から明らかになった課題

理科	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	○知識・技能 ・「オオカマキリの冬の越し方」「湯気は液体であること」が目標値に対して低かった。 ○思考・判断・表現 ・「月の動きと時刻」「水の流れとビー玉の動き」といった、二つの関係から一方を推測する課題の正答率が低かった。また、物のあたたまり方や水の状態変化など、温度についての正答率が低かった。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・月の動きや温度による水の状態変化についての正答率が低かった。	→単元による知識の定着に差がある。  →関係性を正しく捉え、一方がもう一方に与える影響を論理的に考える。目に見えない事象について、数値などの目に見える指標を基にして理解する。  →目に見えない事象について関心をもつ。

2 改善策

(1)具体的な改善策

理科	○知識・技能 ・導入を工夫し、それぞれの単元への関心を高めて、児童が主体的に臨めるようにする。振り返りプリントなどを活用し、知識を定着させる。
	○思考・判断・表現 ・ノートに考えを示す際に、原因と結果の関係を言葉や表で正しく表現するようにする。
	○主体的に学習に取り組む態度 ・目に見えない事象を、別の目に見える現象や数値に置き換えて捉え、より身近なものとして受け止められるようにする。

(2)改善策(手だて)に対する検証

係活動の様子を見たり、学級の時間の中で理科的な事象を話題に取り上げたりしながら、児童の関心や知識の様子を見る。ノートの記述に考えを書く際に、根拠を示して論理的な説明ができているかを確認する。